

2022年 9月期 決算説明補足資料

アイビーシー株式会社

証券コード 3920

2022年 11月 29日

AGENDA

- 1 第20期 連結決算概要
- 2 第20期 トピックス
- 3 第21期 業績予想
- Appendix

1

第20期 連結決算概要



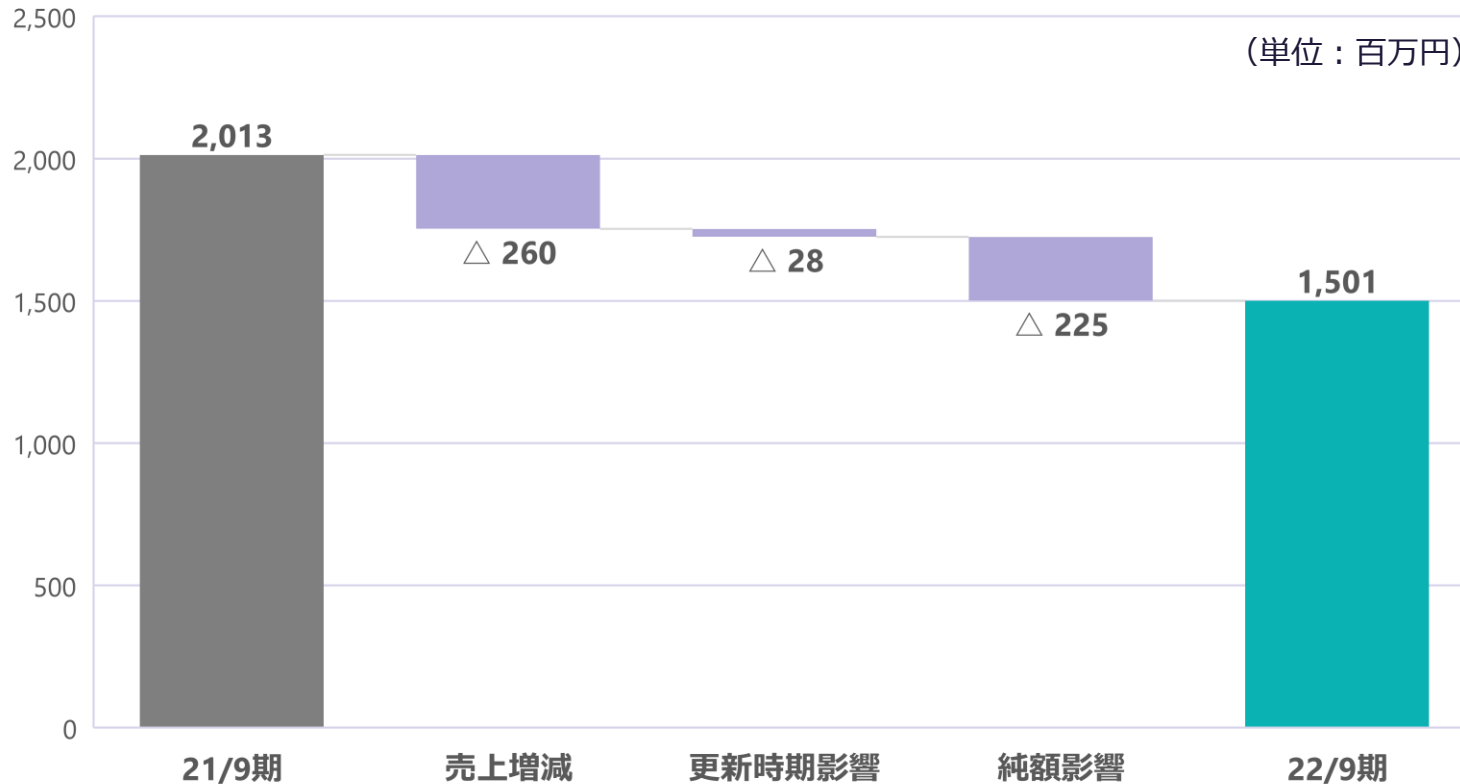
● 第20期 連結決算概要

(単位：百万円)

	21/9期 連結累計期間	22/9期 連結累計期間	前年同期比	22/9期 連結予想	進捗率
売上高	2,013	1,501	△25.4%	1,500	100.1%
売上総利益	1,272	1,024	△19.5%	—	—
販売管理費	991	1,072	+8.2%	—	—
営業利益	280	△48	—	△83	—
(利益率)	(13.9%)	(-%)	—	(-%)	—
経常利益	273	△22	—	△73	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	197	△17	—	△53	—

- 新型コロナウイルス感染症のまん延による行動変化や、世界的な半導体不足や各種機器の納期遅延等が制約となり、期初想定していた売上高を下回る厳しい状況。

● 収益認識に関する会計基準の適用影響について



※代理人取引に関する収益認識

【旧基準】販売対価の総額 (A) 計上



【新基準】販売対価の純額 (A - B) 計上



■ ライセンス更新に係る売上計上時期

ライセンス期限満了に係る更新の場合、更新後のライセンス有効期間開始月より収益認識（更新分△28百万円（翌月計上））（更新時における拡販等は考慮せず）

■ 本人・代理人の区分

他社商品販売の大半の取引について、当社の役割が会計基準上の「代理人」に該当するため、純額を売上計上（△225百万円）

● 第20期 売上内訳（単体）

（単位：百万円）

	21/9期	22/9期	前年同期比
ライセンスの販売	941	632	△32.8%
サービスの提供	445	465	+4.5%
その他物販等	498	288	△42.0%
合計	1,886	1,387	△26.4%

全体で実質減収（前項ご参照）、新規獲得の減少によるライセンス減の一方、サービスは堅調

■ ライセンスの販売

ライセンス継続案件の売上計上時期が期限翌月に変更になった影響に加え、半導体の供給不足に端を発するサーバーやネットワーク機器供給が滞っている影響により、新規案件の獲得が想定を下回り32.8%減。

■ サービスの提供

既存顧客に対するコンサルティングや各種導入作業等の売上が堅調に推移し4.5%増。

■ その他物販等

新会計基準導入による純額計上の影響や前年同期における文教・公共セクターに対する大口販売との差額もあり42.0%減。

● 第20期 期末 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	21/9期末連結	22/9期末連結	前期末差額
流動資産	2,485	2,200	△285
（内、現金及び預金）	1,305	1,406	+101
固定資産	774	1,055	+281
資産合計	3,260	3,255	△4
流動負債	1,228	1,251	+22
固定負債	280	173	△106
負債合計	1,508	1,424	△83
株主資本	1,741	1,724	△16
その他	9	106	+96
純資産合計	1,751	1,830	+79
負債純資産合計	3,260	3,255	△4

- 単年度契約の増加に伴い売掛金が469百万円減少の一方、投資有価証券が256百万円増加。
- 法人税が未払（104百万円減少）から未収還付（50百万円増加）、及び物販売上に係る仕入減少に伴う買掛金減少（39百万円）により負債減。
- 有価証券評価差額96百万円増加により純資産79百万円増。

● 第20期 連結キャッシュフロー

	21/9期 連結期間	22/9期 連結期間	前年同期差額
営業キャッシュ・フロー	446	342	△103
投資キャッシュ・フロー	△319	△199	+120
財務キャッシュ・フロー	△50	△42	+8
配当金（円）	—	4.0	+4.0

■ 連結キャッシュフロー

- 営業キャッシュ・フローは、税金等調整前当期純損失の計上29百万円、棚卸資産の増加24百万円、仕入債務の減少39百万円により資金が減少した一方で、売上債権の減少469百万円、未払金の増加41百万円、契約負債の増加52百万円、減価償却費の計上33百万円、のれん償却費19百万円により資金が増加したことにより前年同期比△103百万円の342百万円。
- 投資キャッシュ・フローは投資有価証券取得117百万円、保険積立金68百万円に加え、System Answer機能強化に伴う無形固定資産支出17百万円増等により前年同期比+120百万円の△199百万円。
- 財務キャッシュ・フローは長期借入金の約定弁済122百万円、短期借入金増の80百万円等により、前年同期比+8百万円の△42百万円。

■ 配当

当社創業20周年記念として、2022年9月期配当は1株あたり4.0円。

2

第20期
トピック



2022年6月15日（水）～ 17日（金）に 幕張メッセで開催された Interop Tokyo 2022 に出展しました。

出展概要

Interop Tokyoは、国内外から数百のインターネットテクノロジーを扱う企業・団体が参加し、技術動向とビジネス活用のトレンドを、会場でのデモンストレーションやセミナーを通じてお伝えするイベントです。IBCのブースでは主力製品「System Answer G3」の新機能を中心に展示し、3日間で約660社・1300人のお客様にお立ち寄りいただきました。今回の出展で初めてIBCのソリューションを知ったお客様からは、「『IT障害をゼロにする』というビジョンに共感する」というお言葉を数多く頂きました。

<今回の展示の目玉>

- System Answer G3 × Flowmon 連携
- 将来予測オプション
- ダイナミックブックマーク機能

ShowNet について

Interop Tokyoの基盤となるShowNetは、さまざまな機器が集まり、相互接続を実現する、最新技術を用いた世界最大級のライブデモンストレーションの場です。

IBCは今年もコントリビューターとして、システム情報管理ソフトウェア「System Answer G3」などの製品を提供し、今回のInterop Tokyoを支える514ホスト / 63,146項目にもおよぶShowNet NOC環境の統合監視を行い、ShowNet環境の安定稼働・予兆検知を実現することで、Interop Tokyoの基盤をサポートいたしました。



● インテグレーションビジネスを本格開始

働き方改革によるワークスタイルの変化やゼロトラストなどによる企業 IT インフラの変化を支援するために、2022年5月26日よりITインフラを中心にNI（Network Integration） / CI（Cloud Integration）サービスを本格的に提供開始しました。

IBC-Integration について



「IBC-Integration」は、IBCが20年間に渡り蓄積したインフラ環境の分析・解析ノウハウをもとに、小規模から大規模まで、高信頼・高可用なネットワーク及びクラウドを設計・構築するサービスです。

お客様のお悩みに寄り添い、システムの構築から“攻めのIT”提案まで、幅広くご支援します。パートナー企業との連携により、**ネットワーク構築に特化した200名を超える専門部隊を編成**し、さまざまな規模の案件に対応できる体制を整備しています。ネットワークインフラ、サーバーインフラの新規導入の際に必要な作業を一気通貫でご支援します。



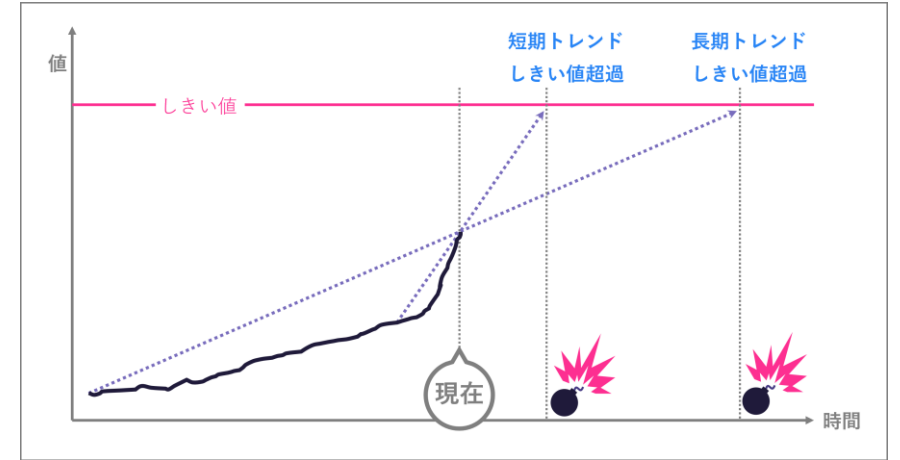
『IT 障害ゼロ』を目指す新機能の提供

将来予測オプション

2021年8月リリース

未来の状況を予測し、障害そのものを回避する

今までの障害対応は、障害発生後に主眼を置いてきました。本機能では短期、長期の予測や周期性がある傾向を自動学習する事によって、運用者は事前に十分な対策を行うことが可能です。

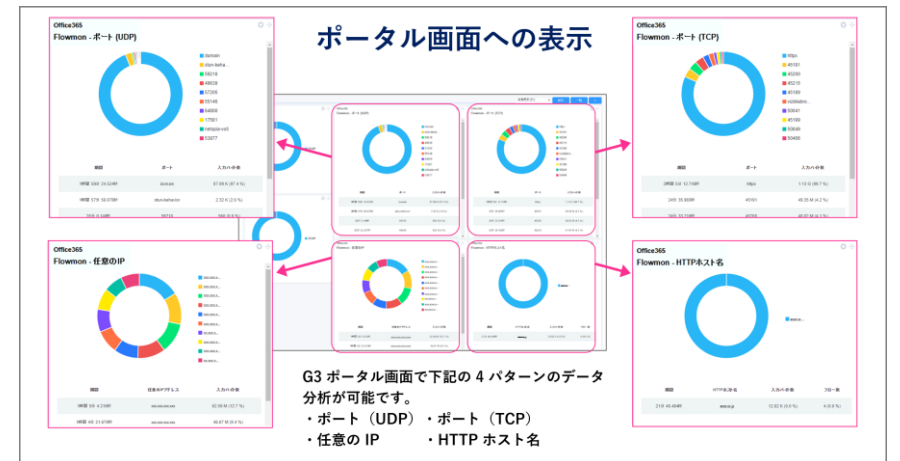


System Answer G3 × Flowmon API連携機能

2022年5月リリース

ネットワークフロー解析をより早く、簡単に実現

トラフィック監視を行っているSystem Answer G3のGUI上でネットワークフロー解析も同時にできるため、性能情報とフロー情報をあわせて分析する場合に、相互にツールを切り替える必要がなく調査に要する時間を大幅に短縮できる機能です。



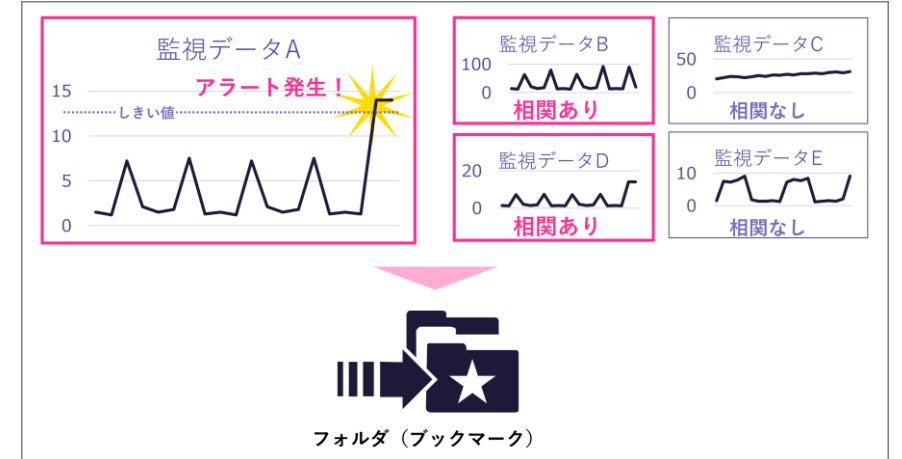
『IT 障害ゼロ』を目指す新機能の提供

ダイナミックブックマーク（相関分析）機能

2022年10月リリース

アラート発生時、障害の根本原因をいち早く特定

ITシステムの運用者がアラートを契機に複数ある監視データの中から傾向が似ている監視データを抽出し、同じフォルダ（ブックマーク）に監視データを入れることで、一度に関連した監視データを確認できる機能です。

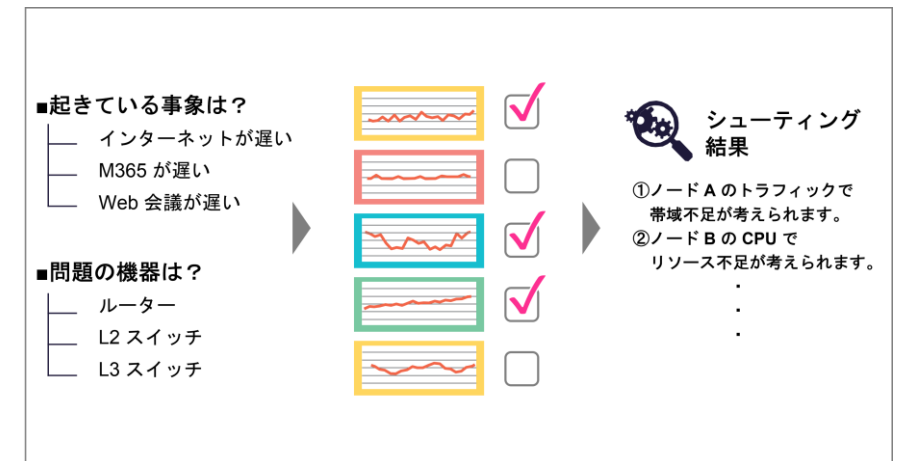


トラブルシューティングアシスタント機能

2022年10月リリース

トラブルシューティングを支援し、復旧にかかる時間を短縮

IBCが長年蓄積してきたトラブルシューティングのノウハウをSystem Answer G3の画面上でいつでも参照することができ、トラブル原因の候補提示から原因の絞り込みまでサポートできる機能です。



3

第21期 業績予想



● 第21期 通期連結予想

(単位：百万円)

	22/9期 連結期間	23/9期 連結期間	前年同期比
売上高	1,501	1,765	+17.6%
営業利益 (利益率)	△48 (-%)	100 (5.7%)	-
経常利益 (利益率)	△22 (-%)	100 (5.7%)	-
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	△17 (-%)	65 (3.7%)	-
配当	4.0円	未定	-

- 売上については、今後も「System Answer シリーズ」のライセンス販売による事業拡大を図るとともに、ITシステムインフラのコンサルティングやソリューションサービスの提供、さらにマーケットの変化に対応したサービスを積極的に展開することで、事業領域の拡大を行う。また、経営の安定化に向けたストックビジネスの拡大についても注力し、前期比+17.6%の1,765百万円を想定。
- 中長期的な成長に備えた給与水準引き上げや当社主力製品機能強化等に係る投資に加え、デジタルマーケティングの強化・実施費用等で約60百万円の販管費増を見込むが、営業利益については100百万円と黒転を想定。配当については未定。

Appendix



MISSION

IT障害をゼロにする

VISION

IT活用で永続的に成長し、 事業・社会へ貢献する

社名	アイビーシー株式会社 IBC : Internetworking & Broadband Consulting Co.,Ltd.
所在地	【本社】 東京都中央区新川1-8-8 アクロス新川ビル8F 【西日本事業所】 大阪府大阪市淀川区西宮原2-7-38 新大阪西浦ビル3F
上場区分	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード：3920）
設立	2002年10月16日
資本金	442,930千円 (2021年9月30日現在)
代表者	代表取締役 加藤 裕之
事業内容	1) ITシステム性能監視ツールの開発 / 販売 / サポート 2) ITシステムの性能評価サービス 3) ITシステムの設計・構築、コンサルティング 4) IoT電子証明セキュリティ基盤の開発 / 提供 5) 各種機器、ソフト販売





ミッション、ビジョンの実現に向けて

技術と成長領域に関する展開

これまで培ってきた予兆検知・情報管理・将来予測のノウハウを活かし、AIやデータアナリティクスの領域にも手を広げ、あらゆるデータを組み合わせてIT障害を未然に防ぎます。お客様に求められる製品・サービスを展開していくため、パッケージソフトウェアのSaaS化を進めてまいります。

DXに関する展開

ソフトウェアライセンス販売による1,000社以上の導入実績の顧客基盤をもとに、DX支援（ネットワークインテグレーション、クラウドインテグレーション、システムインテグレーション、コンサルティング）のサービスを拡充してまいります。

運用サービスに関する展開

System Answer シリーズのSaaS型モデルである「SAMS」のプラットフォームをより拡大させ、お客様のセキュリティ管理やコスト管理に対する課題にも取り組んでまいります。



(100%子会社)



(持分法適用関連会社)

● 株式会社サンデーアーツ（100%子会社）



2019年4月に簡易株式交換により完全子会社化
最先テクノロジーによるシステム開発を行っている

ブロックチェーン開発事業

AI開発事業

RPA開発事業

ソフトウェア開発事業

システムエンジニアリングサービス（SES）事業

パッケージソフトウェア開発、販売事業



AI、IoT等の先端技術を活用した研究開発・サービスを創出

出資先概要

- ◆ 設立 2019年4月1日
- ◆ 代表者 黄川田 英隆
- ◆ 資本金 資本金100百万円
- ◆ 親会社 株式会社NSD本社（代表取締役社長 今城 義和、東証プライム市場）
- ◆ 2019年4月25日出資
- ◆ 議決権所有割合（20%）の持分法適用関連会社 非常勤役員1名派遣

お問い合わせ窓口

本社

〒 104-0033
東京都中央区新川1-8-8 アクロス新川ビル 8F
TEL : 03-5117-2780 FAX : 03-5117-2781

西日本事業所

〒 532-0004
大阪府大阪市淀川区西宮原2-7-38 新大阪西浦ビル 3F
TEL : 06-7653-1014 FAX : 050-3473-4160

URL

コーポレートサイト → <https://www.abc21.co.jp/>
ソリューションサイト → <https://system-answer.com/>

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料は、当社の財務情報、経営情報等の提供を目的としており、内容についていかなる保証を行うものではありません。

本資料に記載されている当社以外の企業等に関わる情報及び当社以外の第三者の作成に係る情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、かかる情報の正確性、完全性及び適切性等について何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。本資料に記載しております見通し、予想数値等の将来に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。

今後の業績等は、事業運営、経済情勢その他の様々な要因によって予想と異なる可能性がありますので予めご承知おさください。

本資料に関するお問い合わせ

アイビーシー株式会社 コーポレートサービス統括部
TEL:03-5117-2780
<https://www.abc21.co.jp/contact/ir/>